

| | | | | | |
|--|--|--------------------------|---------------------------|-----------------|------|
| 日本工学院専門学校 | 開講年度 | 2020年度 | 科目名 | 音楽基礎A3（ノーテーション） | |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 開設学科 | ミュージックアーティスト科 | コース名 | プレイヤーコース | 開設期 | 前期 |
| 対象年次 | 2年次 | 科目区分 | 必修 | 時間数 | 30時間 |
| 単位数 | 2単位 | | | 授業形態 | 講義 |
| 教科書/教材 | 毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。 | | | | |
| 担当教員情報 | | | | | |
| 担当教員 | 杉山 泰 | | 実務経験の有無・職種 | 有、作曲家 | |
| 学習目的 | | | | | |
| この授業を受講する学生は、音楽における世界共通のコミュニケーションツールである楽譜について学んでいく。プレイヤー科の授業なので、まずはしっかり譜面を読む、読譜能力を養うことに重点をおいて授業を進めていく。1年次より複雑な楽譜が読めるようになっていく中、より細かい楽譜を書くことに進んでいくこととなります。この授業で学ぶことは、音楽理論や専攻実技の授業において確実にその進歩を速め、理解を深めることとなります。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 自分の専攻楽器で初見演奏ができるようになることで、プロとしてどのようなジャンルにでも多少の時間をかければ対応できるようになる。楽譜の基礎からリードシート、マスターリズムの作成ができるようになる。各パートの譜読み・理解により演奏することでアンサンブルにおける他の楽器のパートを把握できるようにする。 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 授業概要 | ソルフェージュの授業と連動して、リズムやメロディーを細かく詳しく確実に読譜し、実際に自分の専攻楽器で楽譜を演奏できるよう、その準備と解説を行う。苦勞せずにノートを取る事が出来るレベルの読譜力と写譜力。根本的な仕組みを理解した上での正しいリズム表記。 | | | | |
| 注意点 | 筆記用具は楽譜を書きやすい鉛筆を準備する。五線紙を必ず持参。毎回の課題の提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。 | | | | |
| 評価方法 | 種別 | 割合 | 備 考 | | |
| | 試験・課題 | 50% | 試験と課題を総合的に評価する | | |
| | 小テスト | 10% | 授業内容の理解度を確認するために実施する | | |
| | レポート | 10% | 授業内容の理解度を確認するために実施する | | |
| | 成果発表 (口頭・実技) | 20% | 授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する | | |
| | 平常点 | 10% | 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する | | |
| 授業計画（1回～15回） | | | | | |
| 回 | 授業内容 | 各回の到達目標 | | | |
| 1回 | 楽譜についての基礎知識の復習 | 五線紙の説明 ト音記号 ヘ音記号 | | | |
| 2回 | リズム譜① | 8分音符 16分音符 を中心としたもの | | | |
| 3回 | リズム譜② | 8分休符 16分休符 4分休符 2部休符 | | | |
| 4回 | リズム譜③ | 音符と休符の混ざったもの | | | |
| 5回 | リズム譜④ | 16分音符 16分休符を中心としたもの | | | |
| 6回 | リズム譜⑤ | 3連譜・5連符 | | | |
| 7回 | 復習テスト | 復習テスト | | | |
| 8回 | 音程プラスリズム譜① | オクターブ以上 ハ長調の演奏 | | | |
| 9回 | 音程プラスリズム譜② | オクターブ以上 ハ長調の演奏 リズムをやや難しく | | | |
| 10回 | 音程プラスリズム譜③ | 半音階#bを含む読譜 | | | |
| 11回 | 音程プラスリズム譜④ | メロディーの読譜 | | | |
| 12回 | 音程プラスリズム譜⑤ | 簡単な和音の読譜 | | | |
| 13回 | 曲の演奏① | 課題曲の演奏 | | | |
| 14回 | 曲の演奏② | 課題曲の演奏 | | | |
| 15回 | 総復習・演奏 | 総復習・演奏 | | | |